



MANAZURU

議会だよりまなづる

No. **44**

2014年(平成26年)
8月1日発行



私の好きな場所

「岩海水浴場」

撮影者：向笠泰子さん
岩海水浴場は、7月17日に海開きをしました。毎年大勢の海水浴客で賑わいます。

C 目次 ontents

6月定例会・7月臨時会	2-3P
一般質問	4-7P
議長の部屋	8P
審議結果	8P
真鶴町立まなづる小学校開校 10周年記念式典他	8P

神奈川県真鶴町議会

〒259-0202 神奈川県足柄下郡真鶴町岩244-1
電話0465-68-1131(内線360)
info-center@town-manazuru.jp

発行/真鶴町議会
編集/議会広報特別委員会

ご意見ご感想をお寄せください

6月定例会・7月臨時会

6月12日～13日 定例会開催

6月定例会は、平成26年度補正予算・条例制定などの審議が行われた。

手 専決処分承認を求めることについて

(平成26年度真鶴町真鶴魚座・ケープ真鶴特別会計補正予算(第1号))

全員賛成

村田 魚座のメニューが新しくなって、売り上げの推移は?

産業観光課長 売り上げは増加、賄材料費を削減した結果、4、5月の対前年度収支で143万1千円の増となった。

村田 当初予算1億3千万のほぼ1割を繰り入れて、26年度の資金繰りはうまくいくのか?

産業観光課長 歳入増を図りながら歳出減を継続することに対応していく。

光吉 専決処分を行うと、議会の承認を得なくても通ってしまう。
繰り上げ充用は3年連

続しており、現状では2千万程度の赤字となるが、今後の方向性は?

産業観光課長 1月以降開催の全員協議会、経済文教常任委員会協議会等で収支状況を説明し、5月開催の経済文教常任委員会協議会で、繰り上げ充用が必要なので専決処分したいとの報告をして

いる。
引き続き、意見を伺いながら健全な運営を目指していく。

光吉 両施設とも現状で続けていくのか?

産業観光課長 歳出を抑制し歳入も増加している状況なので続けていく。

あわせて指定管理、貸付等、良い方法を検討していく。

手 真鶴町固定資産評価審査委員会委員の選

任について

全員賛成

手 真鶴町税条例の一部を改正する条例の制定について

賛成多数

村田 国の地方税法改正に伴うものなのでやむを得ないが、それぞれの税収の増減の試算は?

税務収納課長 法人税は248万円の減、原付・二輪車は111万4千円の増である。

四輪の軽自動車は来年4月以後に新車として購入したものが対象となる。
黒岩 軽自動車は庶民の足になっていっているので税の値上げはいかがなものか?

税務収納課長 改正地方税法に定められた標準税率である。

普通自動車と軽自動車の税率が4倍以上の格差があり、その均衡などを

はかるための30年ぶりの改正である。

手 真鶴町国民健康保険条例の一部を改正

する条例の制定について

賛成多数

村田 国民の健康を守るために大切な制度だと思うが、平均18%のアップ

であまりにも高額になりすぎると支払できない世帯が出ると思うが?

町民生活課長 所得の少ない世帯には軽減措置があり、40～50%が軽減世帯である。

一律に18%ではない。
村田 5月30日の国保運営協議会でどのような話し合いがされたか?

町民生活課長 この改正により、どの程度の税収増を見込んでいのかという質問があった。

村田 近隣市町村との格差は?

町民生活課長 足柄下郡・上郡の箱根町以外の7町では、医療分、後期

支援分は当町よりも高い町はある。
介護分は一番高くなる。

村田 昨年12月定例会に真鶴町議会として国民健康保険の広域化を求める意見書を出した。

町民生活課長 町村会を通じて抜本的な解決を要望している。

板垣 県で広域化の動きはどのようになってい

か?
町民生活課長 平成27年度に新しい法律を制定、

29年度に都道府県単位化とする方向性が示されている状況である。

板垣 町民に対しての説明は?

町民生活課長 広報7月号で周知、計算式も載せ

る。
また、7月15日に発送する納付書にチラシを同封する。

板垣 ホームページでの広報は?

町民生活課長 広報と同じものをホームページ上でも載せて行きたい。

他市町村のホームページも参考に

する。
黒岩 払えなくなる人が増え収納率が下がるのでは?

医療を我慢してしまっ

て重症化して医療費がか

町長 保険税は平成12年から見直していない。本来は3年ごとに見直しのルールがあるが、行ってこなかった。

町民生活課長 広報7月号で周知、計算式も載せ

る。
また、7月15日に発送する納付書にチラシを同封する。

板垣 ホームページでの広報は?

町民生活課長 広報と同じものをホームページ上でも載せて行きたい。

他市町村のホームページも参考に

する。
黒岩 払えなくなる人が増え収納率が下がるのでは?

医療を我慢してしまっ

て重症化して医療費がか

かを分析し、取り組み方

質疑応答

▶ 平成26年度真鶴町一般会計補正予算(第1号)について
全員賛成

村田 創業促進・経営改善支援事業とは？

産業観光課長 国・県の補助金100%の事業で、①人材育成、創業の場づくり

②創業支援事業実施

③経営改善支援事業を行うもので、失業されている方の中から2名雇用する。

村田 消防ポンプ車をこの時期に補正で買う理由は？

総務課長 公用車には更新計画があるが、消防車にはない。

第三分団のポンプ車が故障したため購入する。

岩本 壊れた車両は何年使ったか？

総務課長 導入後26年経過している。

青木繁 納入まで、消防活動に支障はないか？

総務課長 小型のポンプ車に対応可能である。

青木繁 ポンプ車の更新計画を作成する必要があるか？

るのでは？
町長 耐用年数に近い形で償却できるように努力する。

海野 処分する車両はどうするのか？

町長 ネット販売を考慮しており、少しでも収入にし、備品の購入に充てたい。

光吉 緊急雇用創出事業

臨時特別交付金で雇用する二名の業務、人件費以外の経費の使い道、勤務場所は？

産業観光課長 一名は企画運営と庶務事務で、将来的に起業家になることを期待している。もう一名はパートタイマー。

勤務場所は情報センターの一階。

経費の用途は、講座だけではなく、創業企画プロモーション事務費や専門アドバイザー等を計画に使う。

光吉 行政政策委員会アドバイザーへの謝礼は何に対する謝礼で、見積もりは？

そもそも、なぜアドバイザーが必要か？

企画調整課長 活性化プロジェクトチームの活動に係る謝礼で、一回1万円を20回である。

プロジェクトチームより、より質を高めるためにアドバイザーが必要との申し出があったものだ。

高橋 ふるさと応援寄附件数の推移と増加要因は？

企画調整課長 平成25年

4月は4件、5月は2件だったものが、本年4月は9件、5月は26件と増加した。

寄附への特典を食事券から特産物へと変更し、干物の詰め合わせを加えてから寄附が増えた。

高橋 寄附金額によって、特典にランク付けをする考えは？

企画調整課長 寄附控除

は寄附額から2000円を引いた額が控除になる制度で、控除されない分を特典で補ってきた。

特典へのランク付けを含め、様々な方策を検討していく。

▶ 平成26年度真鶴町真鶴魚座・ケープ真鶴特別会計補正予算(第2号)について
全員賛成

村田 現在立ち入り禁止のテラスは、解禁になるのか？

産業観光課長 当然、人の出入りができるようにする。

光吉 どのような手すり

なのか？
産業観光課長 階段と同じく木調の金属製の手すり、高さは1・3メートルとする。

▶ 少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2015年度政府予算に係る意見書採択についての陳情書

経済文教常任委員会へ付託

▶ 財産の取得について(仮称)真鶴産業活性化センター用地等購入事業
賛成多数

村田 事業計画に変更はあったか？

産業観光課長 交付金を得たプレゼンテーションにおいても事業計画に変更はない。

購入契約成立以降、協議を開始する。

光吉 用地取得の目的に、保健所の要求を満たす干物体験スペースの確保が必要とあったが、いつ保健所に相談したか？

産業観光課長 保健所から魚市場の体験スペースを指摘されてはいないが、今後、より確実に体験できるスペースの確保を必要とするものである。

黒岩 今、購入する理由は？

産業観光課長 安価に購入でき、民間の力を活用しながら地場産業と観光

▶ 財産の取得について 消防ポンプ自動車購入事業
全員賛成

村田 落札率は？

総務課長 予定価格に対して94・57%である。

海野 入札を3回行った理由は？

総務課長 4年前の購入時より予定価格を低く設定したため、2回目までは、最低落札額に至らなかった。

海野 装備は同じか？

総務課長 要望により、ウインチをつけ、備品を一部削った。

海野 4年前は車体を落札業者に返したが今回には？

総務課長 町で処分する。この件に関し、指名参加業者からの質問等は一切なかった。

*定例会・臨時会の質疑は、一部を掲載しています。

7月4日 臨時会開催

7月臨時会は、財産の取得について審議が行わ



村田 知章 議員

真鶴町の記憶を保存しよう！

「真鶴の記憶、デジタルアーカイブについて」

Q 昔の写真や映像は、町の記憶として貴重な財産である。お爺さん、お婆さんが健在のうちに、写真や映像を収集し、デジタル化して保存しなければ、やがて雲霧散して失われてしまう。

A 今後、町では保有する既存資料の整理をし、資料収集に必要な要領等を定め、資料のデジタル化を行い、デジタルアーカイブの公開を平成28年の合併60周年記念事業として実施することを目標に準備を進める。

町では保有する既存資料の整理をし、資料収集に必要な要領等を定め、資料のデジタル化を行い、デジタルアーカイブの公開を平成28年の合併60周年記念事業として実施することを目標に準備を進める。

名前入りで思い出を！「記念日寄贈について」

結婚祝い、孫の誕生祝い、米寿のお祝いなど特別な日の記念に名前入りの寄贈をしていただけのシステムがあれば、公共的なものが作れるのではないかと？

A 神社では寄贈した人の名前が随所にみられる。名前を残すことで多くの人から寄贈を募ることができる。

東京都はベンチの背もたれに記念プレートを入れることで募集し、毎年たくさんベンチを設置している。

町として、ベンチや石段や手すりなど、寄贈のコースを用意して、記念日寄贈のシステムを導入する考えはあるか？

A 現在、現金の寄贈は各種基金に積み立てて、その目的に沿った形で事業の財源としている。備品整備の必要性が生じたときに、導入の検討をする。

町営レストラン魚座の手すりの補修工事の一部の費用を記念日寄贈で集められないか？

A 公共施設としてそぐわないと考える。

空き地の有効活用を！「ポケットパークについて」

Q まちなかの空き地の有効利用として、ポケットパークの導入は？

A 具体的などこにどのような要望があり、どのような方が希望されているのか、担当課にて相談を受ける。

我が町の高齢者は36%を推移している。また、高齢で単身住まいの方等を考えると、移動手段としてのエレベーターの役割は決して少ないとは思えない。

長い階段を上り下りしなければならず、高齢者や障がい者への利便性や安全性を高めるために、エレベーターの設置を要望してきているが、現在の進捗状況と早期実現に向けての働きかけは？

A 昭和44年に神奈川県が建設したこの跨線橋の当初の

昭和44年に神奈川県が建設したこの跨線橋



昔の真鶴港 アーカイブ

一般質問



田中 俊一 議員

JR真鶴駅跨線橋へエレベーターの設置を、

Q 東海道本線真鶴駅を跨ぐ横断歩道橋は、従来より階段を利用せざるを得ず、利用者、特に高齢者や障がい者の負担は大きな問題となつている。

我が町の高齢者は36%を推移している。また、高齢で単身住まいの方等を考えると、移動手段としてのエレベーターの役割は決して少ないとは思えない。

長い階段を上り下りしなければならず、高齢者や障がい者への利便性や安全性を高めるために、エレベーターの設置を要望してきているが、現在の進捗状況と早期実現に向けての働きかけは？

A 昭和44年に神奈川県が建設したこの跨線橋の当初の

昭和44年に神奈川県が建設したこの跨線橋

昭和44年に神奈川県が建設したこの跨線橋

橋については、町としても交通バリアフリーに適した構造にする計画でエレベーターの設置を県に要望してきた。県の当初の計画では、平成25年度には駅北側を、平成26年度には南側の工事を着工する予定であったが、用地の件や補償金の関係で当初の計画どうりには進められなくなつた。

現在では、エレベーターの設置位置や構造も含めて設計を変更する方針で動いているとの報告を受けている。町としては、新たに計画する駅前交通渋滞対策及び駅前再整備計画に合わせて早急に地元や関係機関との調整を実施し、来年度にも北側の工事着手を実現させたいと考えている。

計画の26年度着工を信じていたが実現していない。しかし、これでは困る。あの場所には絶対バリアフリーが必要であり、このままにしておけないので、完成に向けて行動する。

27年度には何とか着工できるように、働きかけたい。両方に一緒に設置するのは無理かもしれないが、最終的には両方に作りたなし、両方でできて初めてバリアフリー化である。そういう計画で、必ず完成には持っていく。

県の当初の



真鶴駅跨線橋



黒岩 範子
議員

Q 3月議会で「真鶴町立診療所問題」に関する百条委員会の設置についての陳情」は不採択になったが疑惑は明らかになっていない。

当時、診療所の事務長も経験され、公正な町政運営を標榜されている町長としての見解を聞いた。

① 町民の納めた税金はどう使われたのか？
② 責任の所在はどこにあったのか？
③ 今後このような問題をおこさないためにどのようにしていくのか？

A 前町長時代における診療所の医師の雇用にかかわる諸問題。

① について。町は医師個人と雇用契約書を締結し、支払いをした。その後、平成24年度の年度途中の9月に私は町長に就

任し、その雇用に際しての報酬月額12万円が高額ではないかと疑問を抱いたので、医師と協議、交渉して月額8万円への見直しを了解してもらった。

その賃金の支払先に關しては、医師個人ではなく、第三者となる法人に支払っていたことが判明したので、それを医師個人への支払いに改めたものだ。

この点が労働基準法第24条違反（賃金の第三者支払い）が労働監督署より指摘され、行政指導処分をうけた。

（高額な12万円になぜ決めたのかについての問いには）当時私は事務長であったが私には話がなかったのでは判らない。

② について。事務処理にかかる誤りの部分のことであると思うが、この問題について調査のため該当職員から事情聴取を行ったが、違反行為自体の認識がなかったとの言を得ており、職員として知識が無かったとしか判断のしようがない。

（担当職員の責任というよりトップの指示ではないかという問いには）前町長時代のことでわからない。

③ について。事務処理として基本的なことであり、考え難いことではあったが、通常業務の中での決裁過程で、各段階でのチェック体制を働かせ、そのまま実施されることのないよう勤めていくことだと考える。

他に「国は介護保険制度を見直し、要支援者向けの訪問介護と通所介護をサービスからはずし、市町村が行う総合事業に移すとしていることなどについて」と「木造建築物の耐震診断と耐震改修について」質問した。

問題について調査のため該当職員から事情聴取を行ったが、違反行為自体の認識がなかったとの言を得ており、職員として知識が無かったとしか判断のしようがない。



一般質問



板垣由美子
議員

Q 障がい者の自立と就業支援推進への本町の取り組みについて

平成25年4月に障がい者の就業する機会を増加させる事により、自立を促進する事を目的とした、障がい者優先調達法が施行された。各自治体には、障がい者就業施設等から優先的に物品やサービスを調達する努力義務が課せられ、物品の調達目標を定めた調達方針を策定する事が要請されている。法施行初年度である平成25年度県内自治体の策定状況が新聞に掲載されていた。未策定の14自治体に本町も含まれていた。今後の本町の策定への取り組みは？

A 障がい者就業施設等からの物品の調達に

関する方針の策定については、昨年度より検討しているが調達の実績がなく状況把握ができず、方針策定に至っていない。昨春秋に開催した、ふれあいスポーツ大会のパンくい競争用のパンを、ひまわりの家に変更して調達した。今後、町内外の調達先や調達可能物品を整理し、方針を策定していく。

Q 策定期限と調達方針の概要は？

A 今年度中に策定する方向だ。概要は、障がい者優先調達推進法に基づく中で策定していく。内容では、就業を推進する対象施設を盛り込んでいきたい。調達実績の公表はホームページを考えている。

Q 近隣の先進地で参考例を学ぶ機会を設ける事は？

A 入所の際に、担当者が近隣施設へ保護者と同行している。この辺を参考にしている。

Q 本町の障がい者地域作業所であるひまわりの家では、情報センターでのパンや小物の販売、牛乳パックリサイクルによる手すき葉書や手作りカレンダーの販売、空き缶の回収などにより収入増を図っている。総合計画におけるまちづくりの理念に、思いやりの町（人権）が示されている。地域作業所ひまわりの家での物品販売や事業に対し、更に支援を強化し、障がい者自立と就業意欲を促進することについては？

A 現在、ケープ真鶴において製品受託販売、パンの販売場所の提供など販売協力を行っている。今後も各種イベントへの出店を含め、担当課と連携して支援を進めていく。

Q 障がい者施設で作成する手すき和紙の名刺などを町長自ら使い、福祉行政にかける思いを伝えていったらどうか？

A 是非使ってほしい。



二見 和幸 議員

「お林展望公園を改め、真鶴半島恋人岬へ」

真鶴を愛し盛り上げ何とかなしたいという若者の団体より、駅前ロータリーにある「頼朝鍋」を移設し活用しようという提案をいただいた。

鍋が錆びて見栄えが悪い、駅に降り立った観光客にも良い印象ではない。さらに鍋をどかし植え込みを小さく整備すれば、送り迎えの渋滞や135号線の渋滞緩和にもなる。

移設場所はお林展望公園先端で、絶景が見渡せ、三ツ石も見ることができ、さらに沖は相模湾と駿河湾が混じる境界線で、そのさまを男女にたとえ「縁結び」のパワースポットとして活用していきたいというもの。

また鍋の他に「幸せの鐘」を設置して「真鶴半島恋人岬」に改名してはどうか？

観光客が立ち寄る場所を増やし滞在時間を延ばしたらどうか？

地元企業にお願いし、一旦撤去して再活用を考えると。お林展望公園先端と亀ヶ崎の間に「吊り橋」を設置する計画と合わせて検討する。水族館跡地や内袋観音の活用についても神奈川県と協議していく。

鋼はいつ撤去するか？

貴船祭りまでには撤去したい。

駅前ロータリーの活用方法については？

関係機関と駅前再整備について協議会を作っているの中で検討する。その中でロータリーの植え込みについても協議していく。

「浮くっちゃボトルの設置について」

北九州市の第七管区海上保安本部にて考察された、ペットボトルを利用した応急的な救命

道具の代用品であり、安価で作製でき100kg程度の方も浮くことができる優れたもの。

真鶴は三方が海に囲まれているが、いままでこういった物は無く、人が海に落ちた場合、飛び込んで助けるしかなかった。溺れている人を助けるのは非常に困難。溺れた人が助かり、助けに入ったひとりが亡くなる事故が多々ある。強く設置を望む。また防災訓練にも取り入れたらどうか？

現状では真鶴港、岩漁港近辺に救助用具は常備されていない。

特に真鶴港は県から管理委託を受けている以上整備する必要性は感じており、「浮くっちゃボトル」に限らず、救命用具の設置整備に努める。

「高齡者増への取り組みについて」

当町の高齡化率予測と、高齡社会対策の状況は？

30年後の推計では、65歳以上が58.7%（現在は36.3%）、75歳以上が38.1%（現在は

17.4）と超高齡化社会になり、更に介護を要する方が増えると予測されるため、高齡者対策や介護サービスの充実を図っていく必要がある。

65歳から74歳までの前期高齡者に元気な方が多く、就労されていない方、元気な後期高齡者の方に、老人クラブへの参加呼びかけや、生きがい事業団での就労機会の提供などしているが、参加率が伸び悩んでいる。

特に草刈シーズンには、需要に対応できない場合があり、課題となっているので、登録者の増大に努めていく。

観光・福祉ボランティア、産業・観光活性化事業などに、高齡者が参加できる多様な機会を創出できるように検討していく。

特に、県が提唱する「未病を治す町」への取り組みにおいて、「高齡者が元気な真鶴町」を合言葉に「町の駅」真鶴駅、「森の駅」お林、二つを結ぶ駅として、仮称地域活性化センターを「食の

駅」と位置づけ運営していく中で、高齡者の方々には、「町の駅」・「森の駅」では、高齡者ならではの知識を活かした観光ボランティアとしてのおもてなし役を、「食の駅」では、経験を活かした干物づくり体験の指導、交流サロンでの来訪者とのふれあいを担っていただき、増々高齡者が元気な真鶴町になるよう計画していく。

災害時の高齡者対策は？

民生児童委員、自治会連合会、老人クラブ、社会福祉協議会等により組織している「真鶴町支え合い、分かち合い体制づくり実行委員会」を中心に、援護が必要な独居高齡者や高齡者世帯だけでなく、障がい者等の世帯について、特に避難時に速やかなサポートができる体制づくりや、坂道の多い場所での要援護者の方々の移動方法等の協力体制作りに取り組んでいく。



浮くっちゃボトル

一般質問



高橋 敦 議員

「公会計の整備について」

当町の公会計整備取組状況は？

既存の決算統計データを活用した総務省方式改定モデルを採用しているが、本格的な複式簿記を導入していないことから、事業別や施設別の分析ができていない。国は、平成27年度からの3年間で統一的な基準による財務書類等作成を要請する予定で、当町でも国のマニュアルに沿って整備を進めていく。

「高齡者増への取り組みについて」

当町の高齡化率予測と、高齡社会対策の状況は？

30年後の推計では、65歳以上が58.7%（現在は36.3%）、75歳以上が38.1%（現在は

17.4）と超高齡化社会になり、更に介護を要する方が増えると予測されるため、高齡者対策や介護サービスの充実を図っていく必要がある。

65歳から74歳までの前期高齡者に元気な方が多く、就労されていない方、元気な後期高齡者の方に、老人クラブへの参加呼びかけや、生きがい事業団での就労機会の提供などしているが、参加率が伸び悩んでいる。

特に草刈シーズンには、需要に対応できない場合があり、課題となっているので、登録者の増大に努めていく。

観光・福祉ボランティア、産業・観光活性化事業などに、高齡者が参加できる多様な機会を創出できるように検討していく。

「町の駅」真鶴駅、「森の駅」お林、二つを結ぶ駅として、仮称地域活性化センターを「食の駅」と位置づけ運営していく中で、高齡者の方々には、「町の駅」・「森の駅」では、高齡者ならではの知識を活かした観光ボランティアとしてのおもてなし役を、「食の駅」では、経験を活かした干物づくり体験の指導、交流サロンでの来訪者とのふれあいを担っていただき、増々高齡者が元気な真鶴町になるよう計画していく。

災害時の高齡者対策は？

民生児童委員、自治会連合会、老人クラブ、社会福祉協議会等により組織している「真鶴町支え合い、分かち合い体制づくり実行委員会」を中心に、援護が必要な独居高齡者や高齡者世帯だけでなく、障がい者等の世帯について、特に避難時に速やかなサポートができる体制づくりや、坂道の多い場所での要援護者の方々の移動方法等の協力体制作りに取り組んでいく。

「高齡者増への取り組みについて」

当町の高齡化率予測と、高齡社会対策の状況は？

30年後の推計では、65歳以上が58.7%（現在は36.3%）、75歳以上が38.1%（現在は

17.4）と超高齡化社会になり、更に介護を要する方が増えると予測されるため、高齡者対策や介護サービスの充実を図っていく必要がある。

65歳から74歳までの前期高齡者に元気な方が多く、就労されていない方、元気な後期高齡者の方に、老人クラブへの参加呼びかけや、生きがい事業団での就労機会の提供などしているが、参加率が伸び悩んでいる。

特に草刈シーズンには、需要に対応できない場合があり、課題となっているので、登録者の増大に努めていく。

観光・福祉ボランティア、産業・観光活性化事業などに、高齡者が参加できる多様な機会を創出できるように検討していく。

特に、県が提唱する「未病を治す町」への取り組みにおいて、「高齡者が元気な真鶴町」を合言葉に「町の駅」真鶴駅、「森の駅」お林、二つを結ぶ駅として、仮称地域活性化センターを「食の

駅」と位置づけ運営していく中で、高齡者の方々には、「町の駅」・「森の駅」では、高齡者ならではの知識を活かした観光ボランティアとしてのおもてなし役を、「食の駅」では、経験を活かした干物づくり体験の指導、交流サロンでの来訪者とのふれあいを担っていただき、増々高齡者が元気な真鶴町になるよう計画していく。

災害時の高齡者対策は？

民生児童委員、自治会連合会、老人クラブ、社会福祉協議会等により組織している「真鶴町支え合い、分かち合い体制づくり実行委員会」を中心に、援護が必要な独居高齡者や高齡者世帯だけでなく、障がい者等の世帯について、特に避難時に速やかなサポートができる体制づくりや、坂道の多い場所での要援護者の方々の移動方法等の協力体制作りに取り組んでいく。

「高齡者増への取り組みについて」

当町の高齡化率予測と、高齡社会対策の状況は？

30年後の推計では、65歳以上が58.7%（現在は36.3%）、75歳以上が38.1%（現在は



岩本 克美 議員

「救急車の出動が増え続ける原因と今後の対策について」

Q 発病や怪我をした時、救急出動を依頼する。過去における救急出動実態を調べたところ、増加傾向にあることが解る。本来必要とする救急患者への取組に影響がないか？

A 救急出動件数の増加について話題になるのが救急車のタクシー代わりの利用があるが、確認したところ、全くないとは言えないが、そのために出動が増えていることはない。

消防庁は、救急車を呼ぶべきか迷った場合に、#7119（東京消防庁救急相談センター）に電話連絡すれば、医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が24時間

年中無休で対応しているシステムがあるようなので、利用の勧奨も必要であると感じている。子ども版として#8000番（小児救急医療電話相談事業）がある。これらの制度等を各種媒体を利用して周知を図り、利用の適正化に努めていく。

Q 年間出動件数を一日平均で見ると約7.5回。4台の救急車が一日平均2回出動していることになる。24時間年中無休で対応しているシステムがあると聞かれたが、あまり知られていないのではないか？

A 確かにその通りだ。住民の方々のモラルに訴えることが重要なので、いろいろな媒体を通じて広報するしかないと考えている。

Q 湯河原消防署では、平成23年中の救急出動実績が掲載されており、年間出動件数は2616件、うち入院を必要としない軽症者を1143人

（全体の43・6%）搬送した。中には、タクシーの代わりに利用される方が時折見受けられるとある。資料の中に「管外」への出動があるが何か？また逆に、応援要請することがあると思うが内容は？

A 指摘の通り、管外への出動はある。応援要請することも僅かだがある。

Q 全救急車が出動中に緊急事態に陥り、救急車を呼んだが来てくれない。人ごとではない！湯河原消防署管内で保護されているはずの全住民のみでなく、観光客等すべての人がその危険に晒される。いざという時に慌てるのは仕方ないこと。迷わず119番通報するべき。

しかし、先ほどの例のような通報は本来の救急通報とはかけ離れた問題であり、住民の高齢化が今以上に進むと、救急搬送対象者数も増える。きちんとした広報すべき。

一般質問



光吉 孝浩 議員

「アジアの子どもたちのホームステイ受け入れによる国際的視点での地域づくり」について

Q 教育委員会では国際的視点に関する事業として、オーストラリアでの中学生海外派遣研修事業を実施している。参加者は「真鶴子ども大使」としての役割を担い、真鶴のPRとともに学校訪問やホームステイ体験を行っている。

A ホームステイを受け入れられることは、異文化への理解や国際的視点を持った町民の育成が図られる。しかし、一方でホームステイ受け入れを町として制度化することについては、町民のニーズの把握、ホストファミリーの確保、費用負担、ホームステイ希望者の確保と選考等、検討すべき課題がある。

「国際的視点での地域づくり」は、全町的な取組となり、総合計画等に位置付けて検討すべき課題と考える。ホームステイの受け入れについては、今後の視点として考えていく。

「健康維持のための学校遊具施設の利用」について

Q 校庭にある遊具施設は、鉄棒、ジャングルジム、つり輪、雲梯、タイヤ、登り棒等がある。教育委員会では、社会体育施設として学校開放を実施しており、利用については、学校が教育活動を行っている時は児童生徒を最優先し、町民の方の利用はご遠慮していただいている。学校が教育活動を行っていない時や利用の申請をした団体が使用しなければ個人で遊具を使用することは可能である。

「自然や環境を生かした特色ある学校教育プログラム」について

Q 教育委員会は自然環境等を生かした教育の取組みとして、「まなづるふるさと教育の推進」を総合計画の実施計画に位置付けている。ふるさと真鶴を好きになり、さらに真鶴町に住みたいという気持ちへとつながっていったらいいという願いを持って、真鶴の生活・自然・歴史環境を活かした教育活動を展開している。一例として、小・中学生を対象に学年に応じたプログラムを作成し、遠藤貝類博物館の学芸員とNPO法人ディスカバーブルーの協力により、「海の学校」を授業に組み入れて実施している。磯の観察、プランクトン観察やビーチコーミングなど海に囲まれた真鶴の特色を生かした事業を行っている。

全寮制の高等教育機関を設立することについては現時点で町が実施することは考えてはいない。

一般質問

議長の部屋



青木 巖

消滅可能自治体に真鶴町

将来人口減少の根拠として、2010年から30年間の20〜39歳の女性人口の減少率が70%と予測されている。

ストップ人口減少

わが町に「若者・中年・都市高齢者」を呼び込む仕組み作りを考えること。

最近、若者が中心になって新しいイベントが実施されています。

若者が世界的な起業チャレンジイベントを開催しました。私もリアルに参加し当日に参観し地元若者のたくましい「若き起業家」の強いパワーを感じ参加者との交流に共感しました。

8月9日から町中に感じる芸術祭「真鶴まちなーれ」を頑張っている若者に町民の皆さんも耳を傾けて応援してください。

平成26年 6月定例会 審議結果

会期(6月12日~13日)

議案番号	議案	採決者数	賛成	反対	議決結果	板垣由美子	田中俊一	黒岩範子	高橋 敦	光吉孝浩	岩本克美	海野弘幸	青木 繁	村田知章	青木 巖	二見和幸
承認第1号	専決処分承認を求めることについて(平成26年度真鶴町真鶴魚座・ケープ真鶴特別会計補正予算(第1号))	10	10	0	承	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同意第1号	真鶴町固定資産評価審査委員会委員の選任について	10	10	0	同	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第36号	真鶴町税条例の一部を改正する条例の制定について	10	9	1	可	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第37号	真鶴町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について	10	8	2	可	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○
議案第38号	平成26年度真鶴町一般会計補正予算(第1号)について	10	10	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第39号	平成26年度真鶴町真鶴魚座・ケープ真鶴特別会計補正予算(第2号)について	10	10	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陳情第1号	少人数学級の推進などの定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元をはかるための、2015年度政府予算に係る意見書採択についての陳情書	10	経済文教常任委員会へ付託													

平成26年 7月臨時会 審議結果

会期(7月4日の一日)

議案番号	議案	採決者数	賛成	反対	退席	議決結果	板垣由美子	田中俊一	黒岩範子	高橋 敦	光吉孝浩	岩本克美	海野弘幸	青木 繁	村田知章	青木 巖	二見和幸
議案第40号	財産の取得について((仮称)真鶴産業活性化センター用地等購入事業)	9	6	3	0	可	○	○	×	○	×	○	○	○	欠	×	○
議案第41号	財産の取得について(消防ポンプ自動車購入事業)	9	9	0	0	可	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○

採決結果 ○=賛成 ×=反対 退=退席 欠=欠席(遅刻・早退を含む) 除=除斥
 議決結果 可=可決 否=否決 承=承認 認=認定 同=同意 報=報告 採=採択 趣=趣旨採択 不=不採択

真鶴町立まなづる小学校 開校10周年記念式典

5月29日、真鶴町立まなづる小学校開校10周年記念式典が開かれました。3代目、尾崎校長のあいさつや来賓の祝辞に続き、アトラクションとして桐朋学園大学『弦楽四重奏』が行われました。

ディズニーやジブリの耳馴染みの深い曲やクラシックを披露、手拍子の上手な子どもたちにかスタネットや鈴が配られ盛り上がりしました。最後の曲は、まなづる小学校校歌を演奏して下さり、子どもたちの合唱とで、最高のコラボレーションとなりました。



編集後記

救急車の救急出動が、年々増加しています。救急車は、病气や怪我で一刻を争うときに出勤要請をするのですが、中には入院を必要としないケースが多々見受けられます。全部の救急車が出動してしまい、重篤な患者を搬送するのに遅れる事案が現実が発生しています。本格的な夏が到来しました。熱中症などには十分注意しましょう。

議会広報特別委員会 委員 岩本 克美

議会広報特別委員会

- 委員長 村田 知章
- 副委員長 光吉 孝浩
- 委員 田中 俊一
- 委員 黒岩 範子
- 委員 高橋 敦
- 委員 岩本 克美

議会報告会

6月24日に開催予定だった議会報告会は、大雨洪水警報が真鶴町に発令されたため、中止となりました。今後の開催については、議会運営委員会において、検討してまいります。

議会を傍聴してみませんか



9月定例会は9月9日(火)~26日(金)までです。真鶴地域情報センターでも議会中継をしています。